

令和7年度 男女共同参画に関する市民アンケート結果

令和8年1月

木更津市地域共生推進課

アンケートの概要

木更津市では、性別等に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる共生社会の実現を目指してさまざまな取組を進めているところです。

つきましては、第5次木更津市男女共同参画計画（令和4～8年度）に基づき、市民の皆様の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的にオンラインによるアンケートを実施しました。

なお、無記名回答かつ統計的な処理を行うため個人は特定されず、調査結果は目的以外に使用しません。

記

1 名称

男女共同参画に関する市民アンケート

2 対象

木更津市内にお住まいの方

3 実施期間

令和7年10月1日（水曜日）～令和7年12月31日（水曜日）

4 アンケート方式

Logoフォームを利用したWEBアンケート

5 有効回答数

338

6 市ホームページURL

<https://www.city.kisarazu.lg.jp/soshiki/shimin/chiikikyoseisuishin/1/2973.html>

木更津市では性別等にかかわらず誰もが自分らしく
安心して暮らせる共生のまちづくりを進めています

男女共同参画やDV防止に関する
みなさんの意識や生活実態等について教えてください



市民アンケート にご協力をお願いします

- ・二次元コードを読み取り、リンク先からご回答をお願いします。
- ・個人が特定されたり、他の目的で利用されることはありません。
- ・あてはまる番号を選ぶか、必要事項をご記入ください。
- ・アンケートの集計結果は市ホームページで公表します。
- ・ご不明な点などについては、地域共生推進課へお問い合わせください。

回答はこちらから

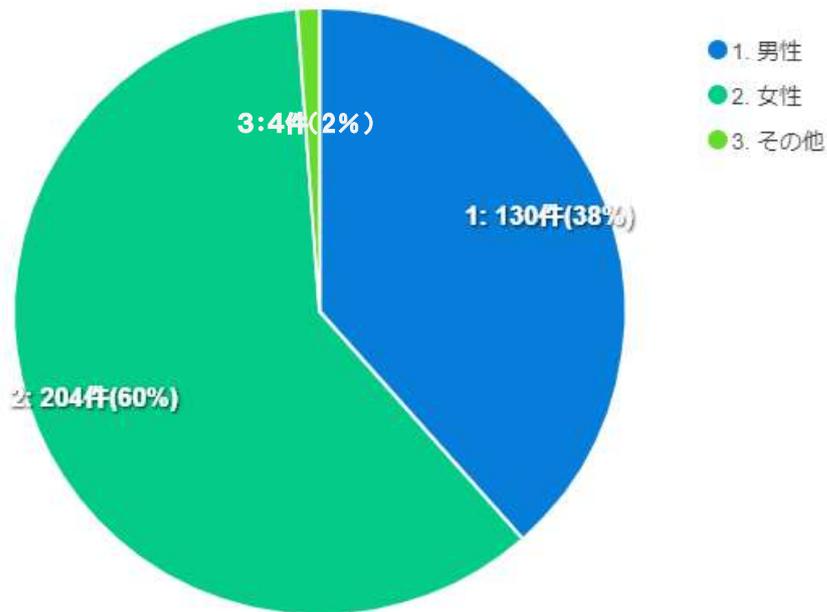


2025 10.1 水 ▶ 12.31 水

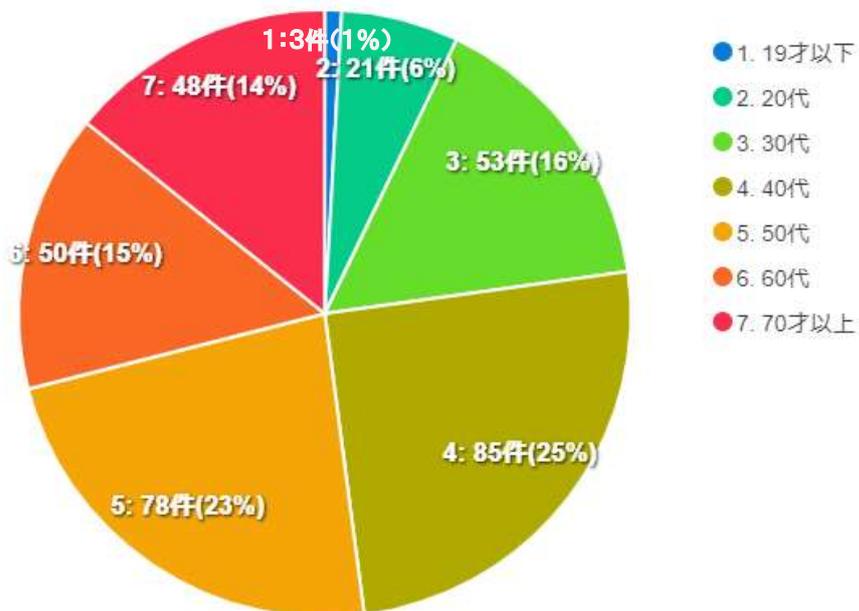
問い合わせ 木更津市地域共生推進課 TEL:0438-38-3089

◆あなた自身のことについて

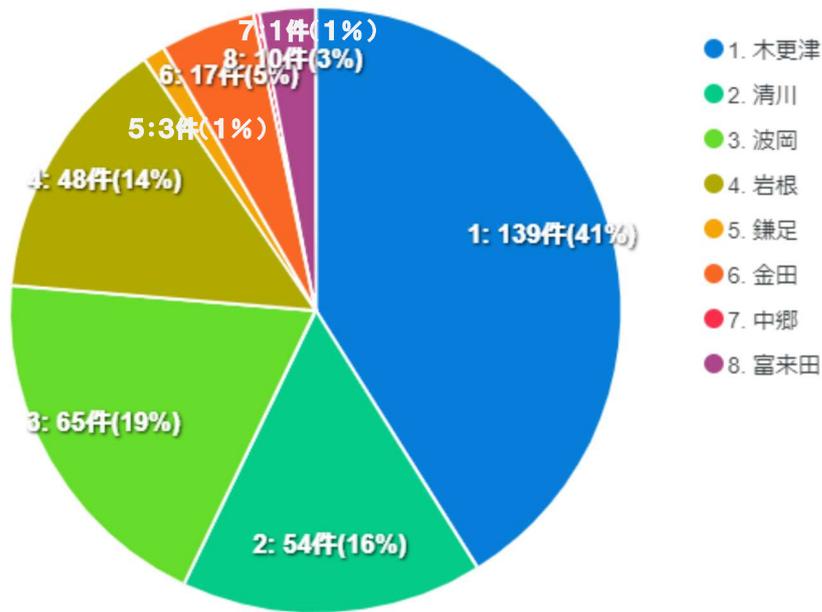
問1 性別を教えてください。(n=338)



問2 年齢を教えてください。(n=338)

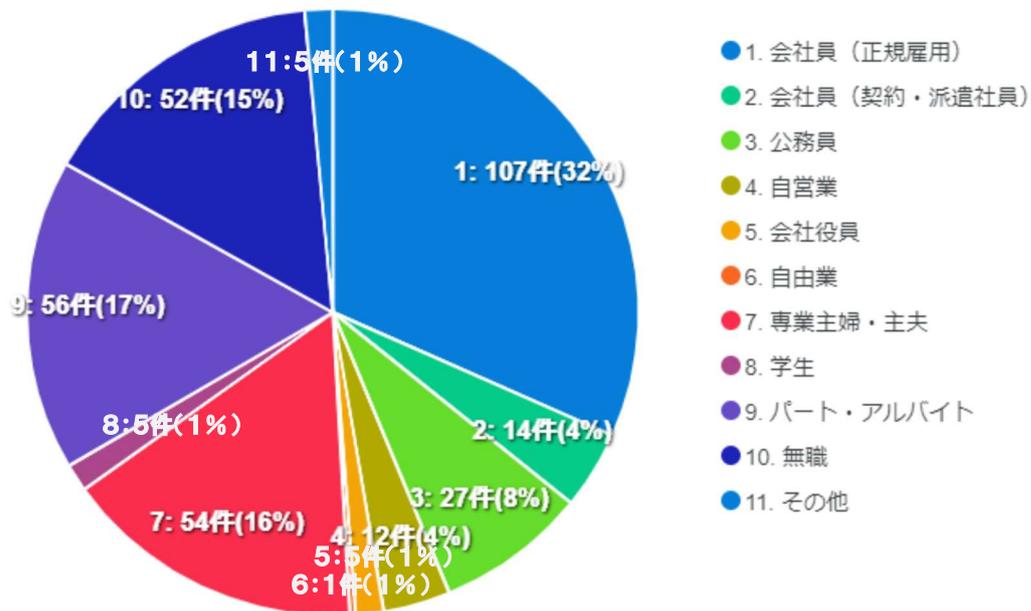


問3 お住まいの地区を教えてください。(n=338)



問4 職業について教えてください。(n=338)

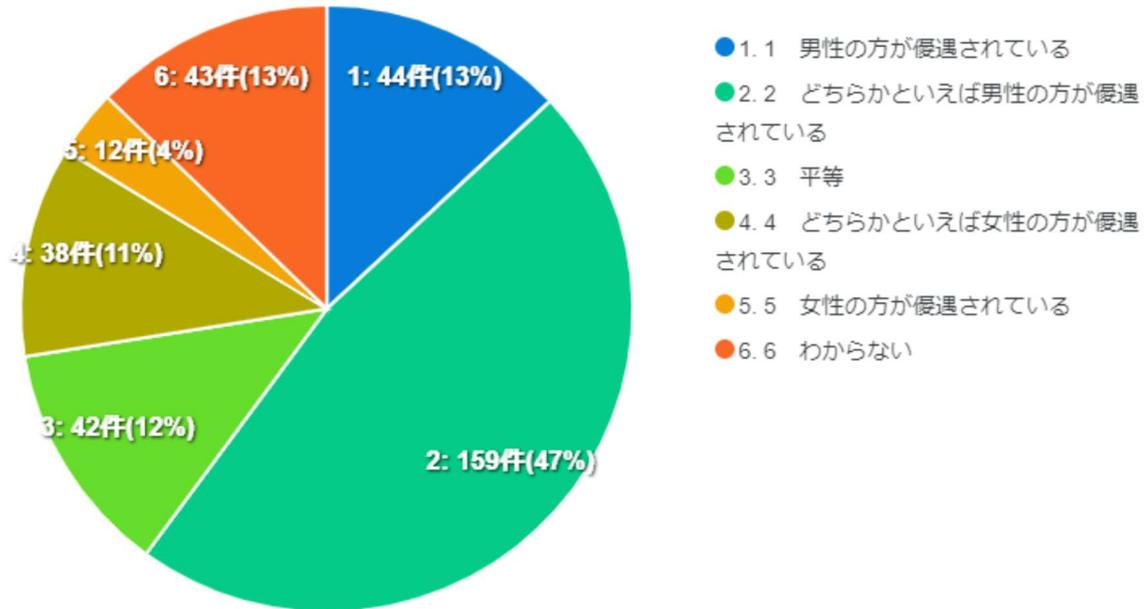
※出産休暇、育児休業中の人は働いているものとみなします。



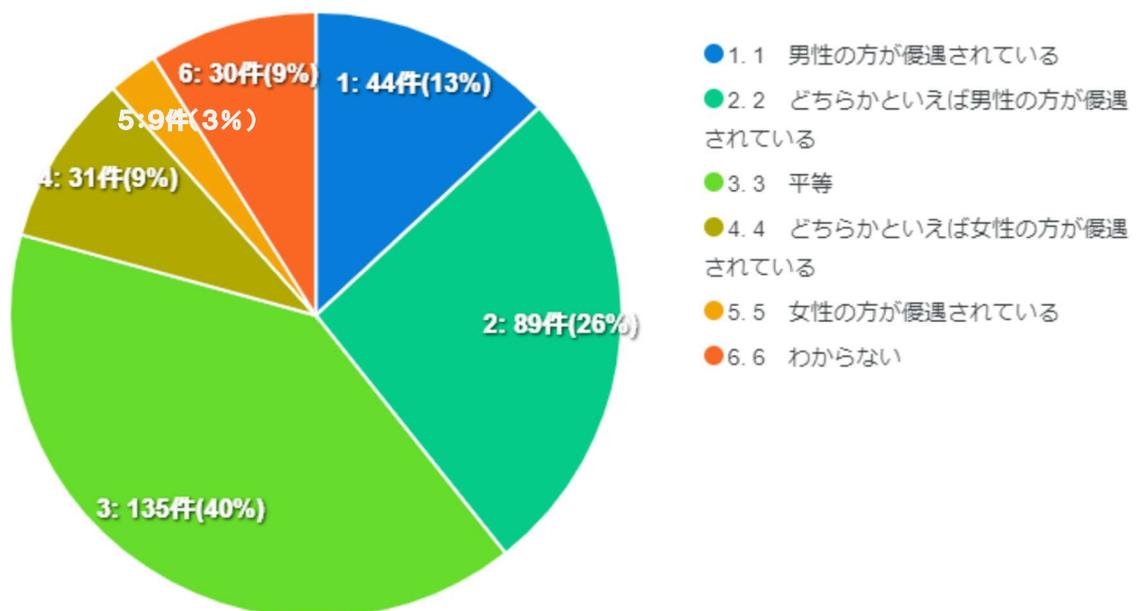
◆男女平等に関する意識について

問5 現在、①～⑧の分野で男女平等になっていると思いますか。

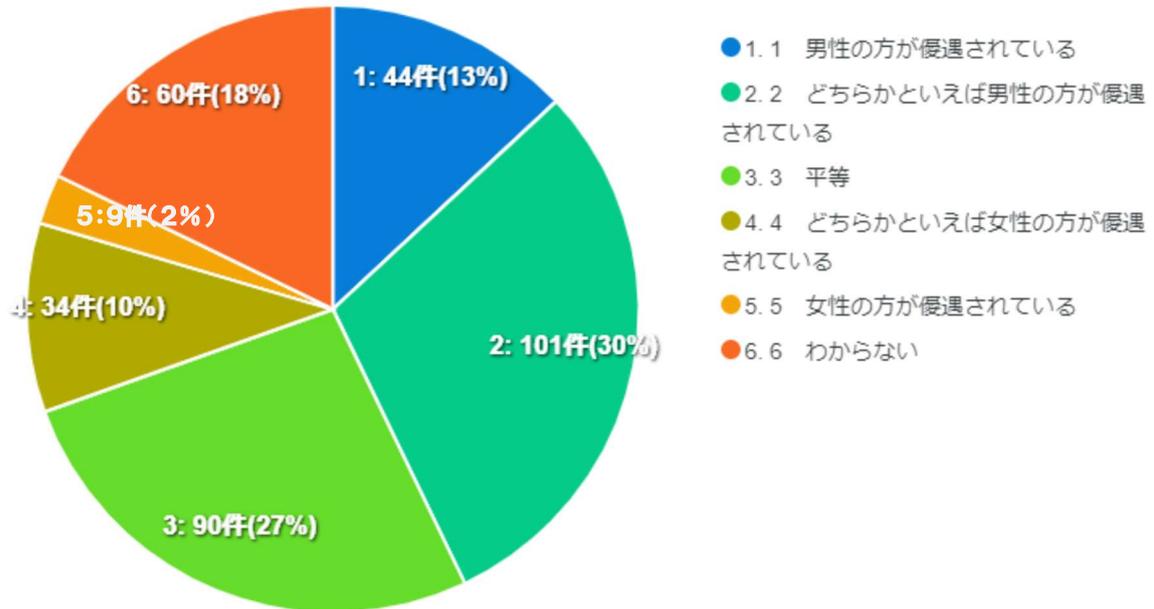
①社会全体で (n=338)



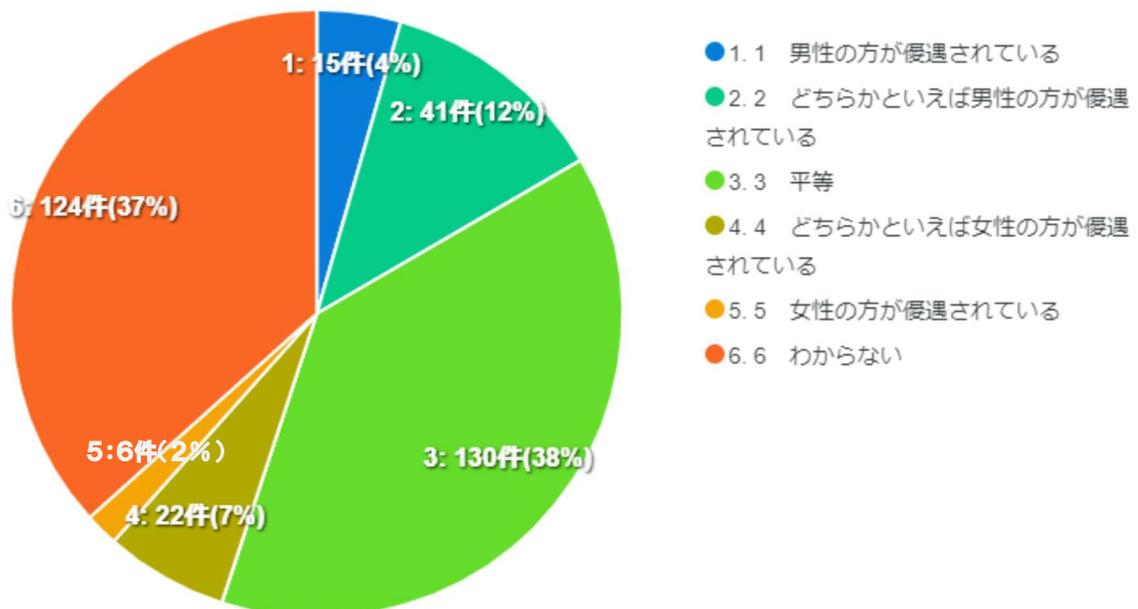
②家庭内で (n=338)



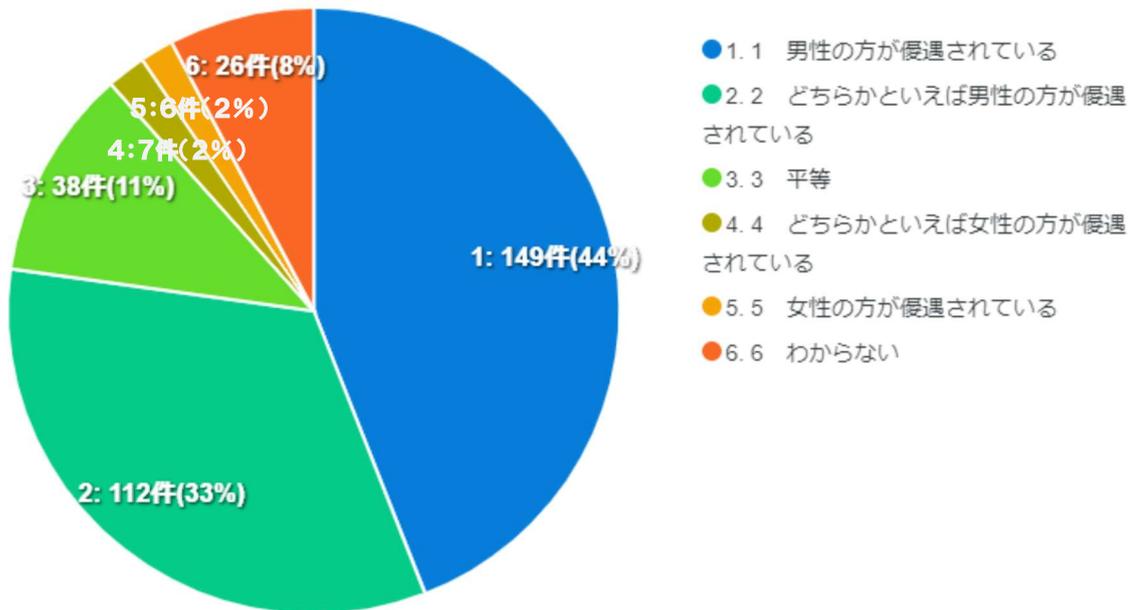
③職場内で (n=338)



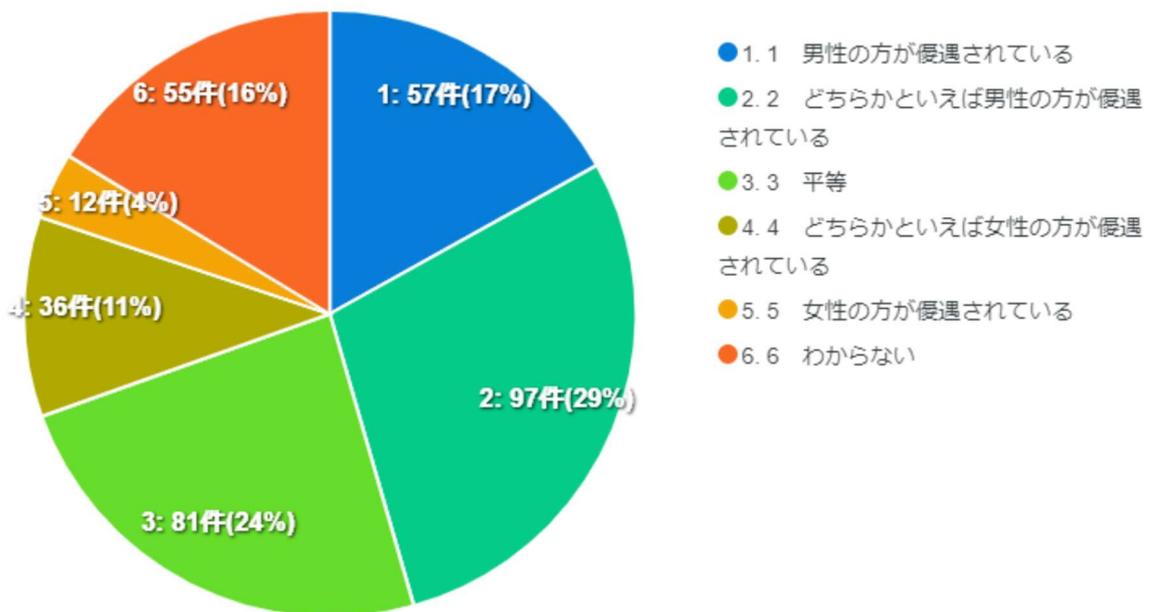
④学校教育の場で (n=338)



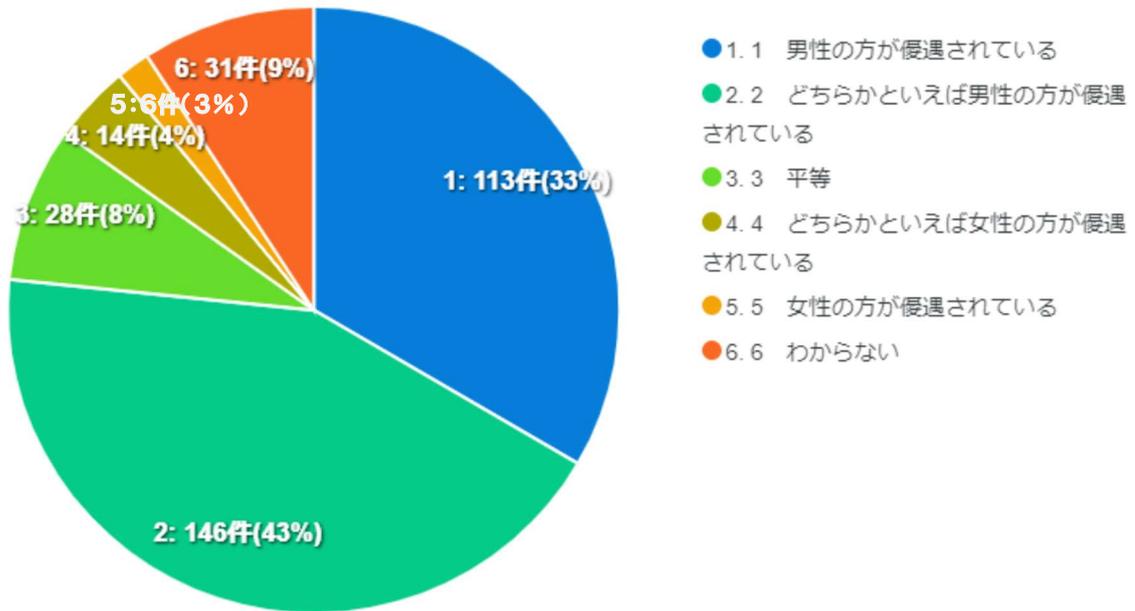
⑤政治の場で (n=338)



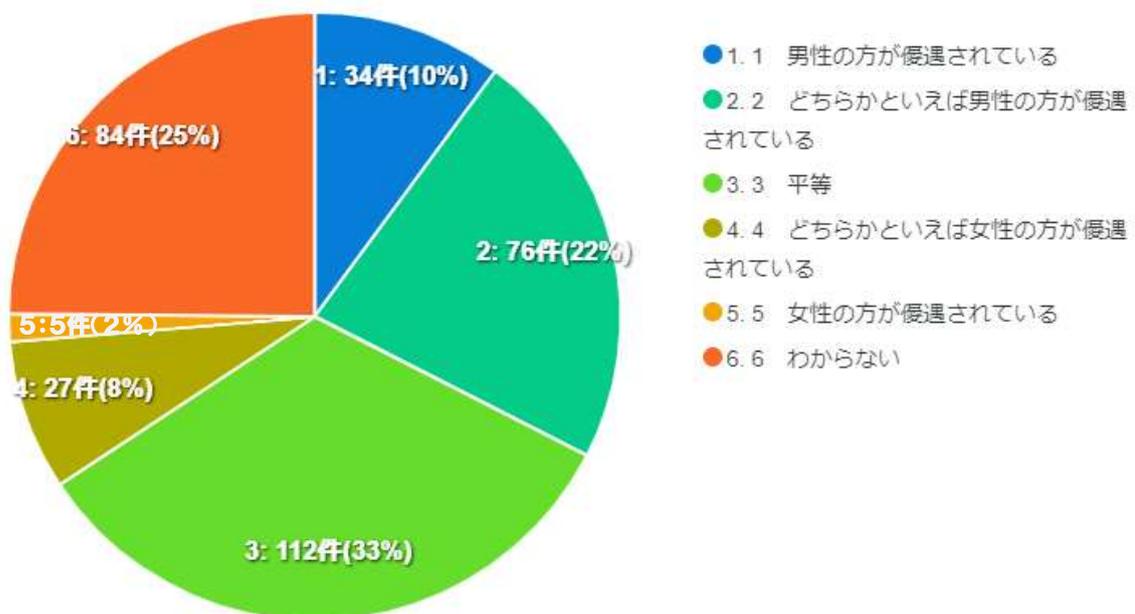
⑥法律や制度の上で (n=338)



⑦社会通念・慣習で（風潮・しきたり等）（n=338）

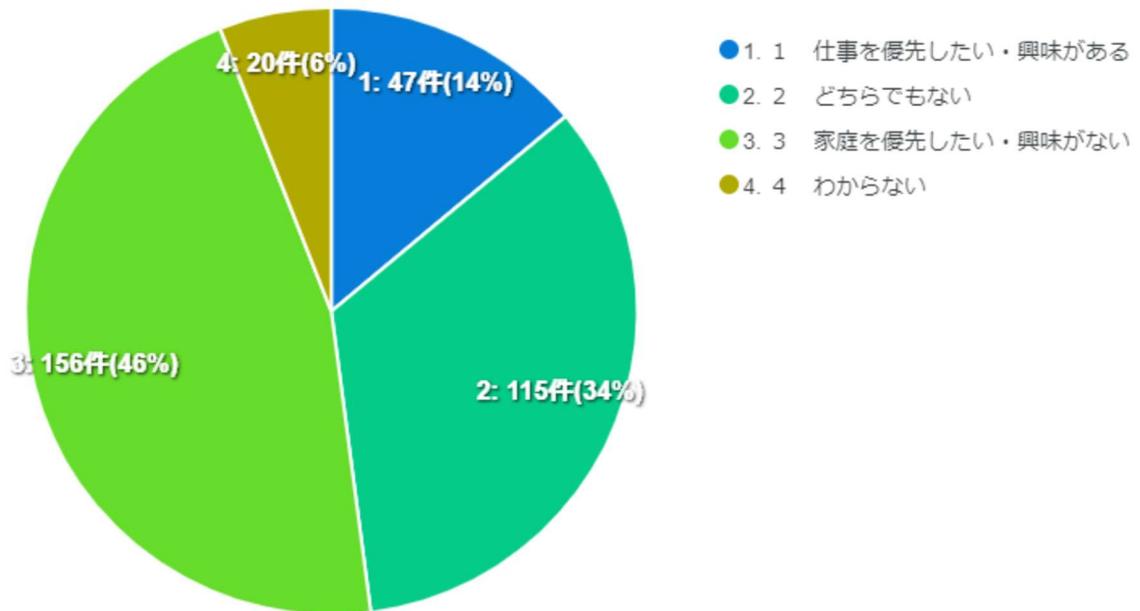


⑧地域活動の場で（自治会・PTA・ボランティア等）（n=338）

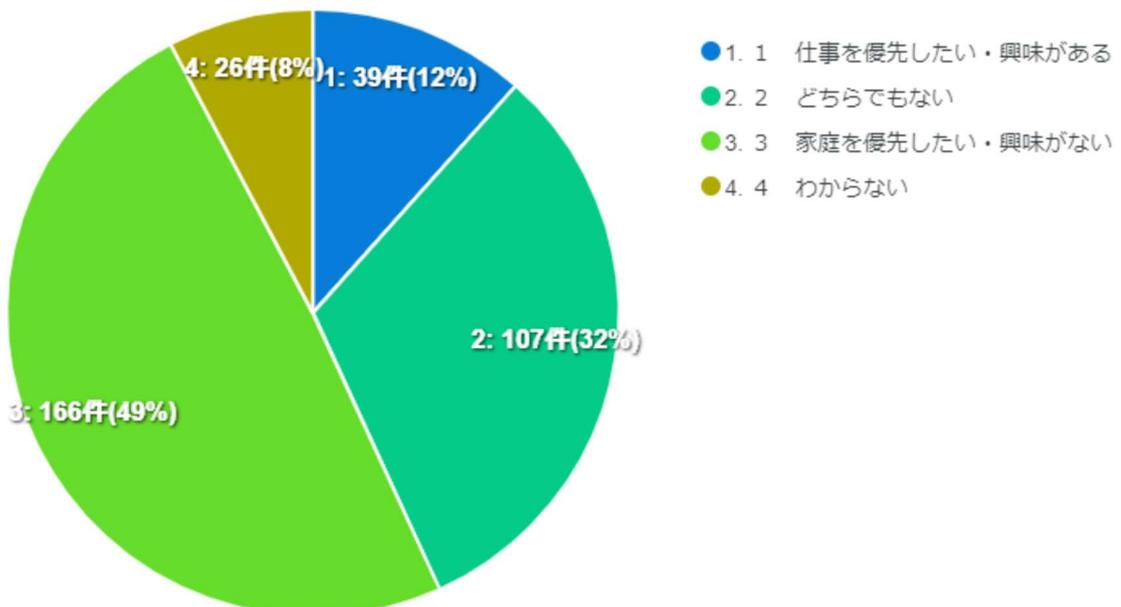


問6 現在、①～⑤の分野についてどのように考えていますか。

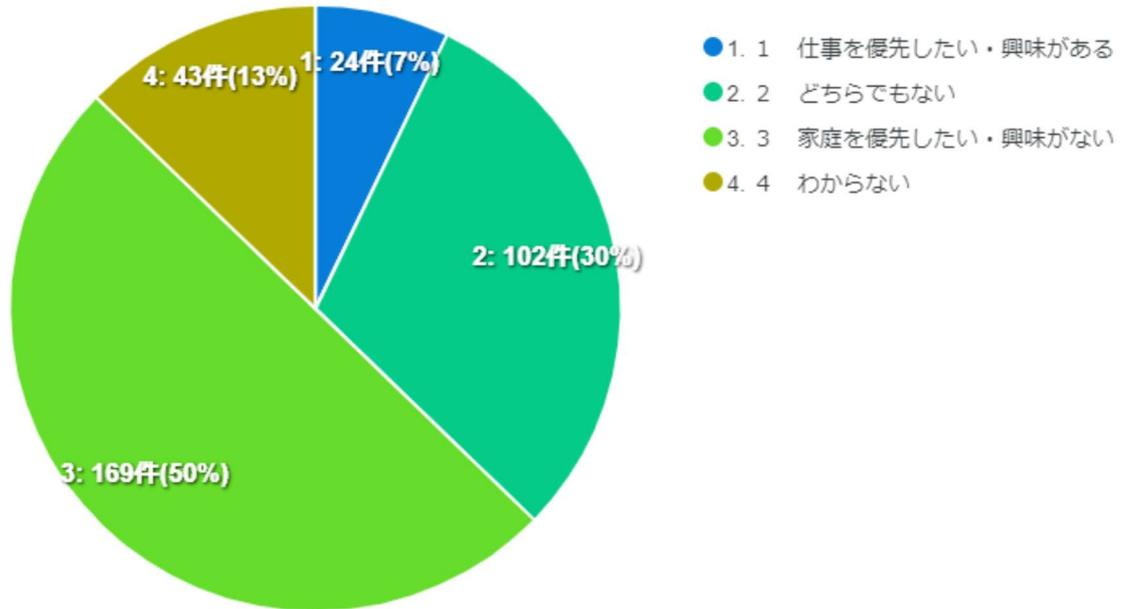
① 仕事と家庭（家事、育児、介護等）のどちらを優先したいか（n=338）



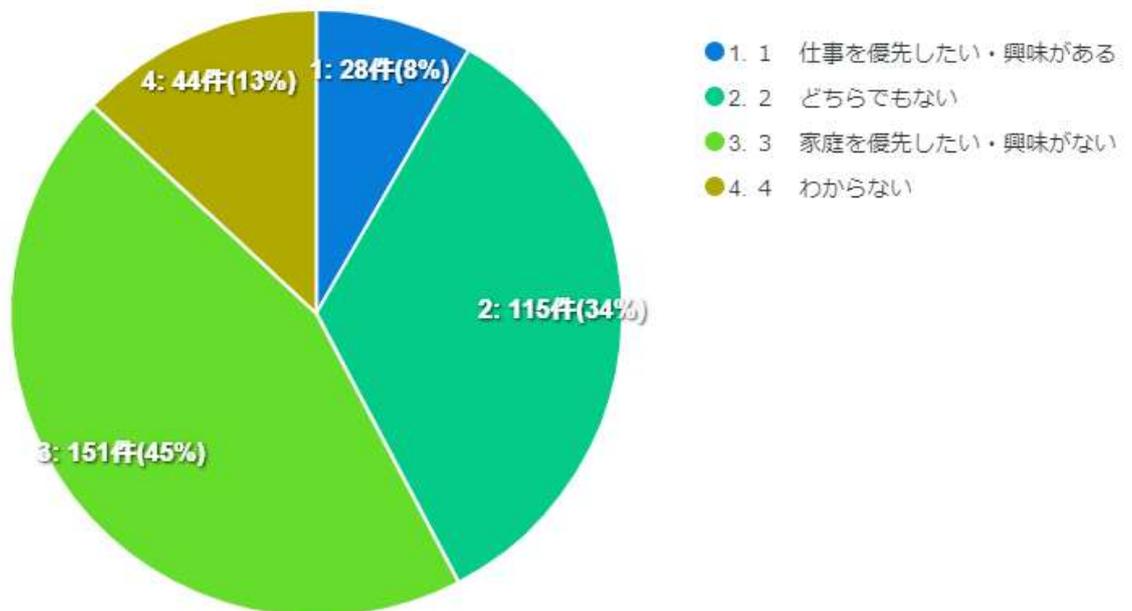
② 自治会員等の地域活動に興味がある（n=338）



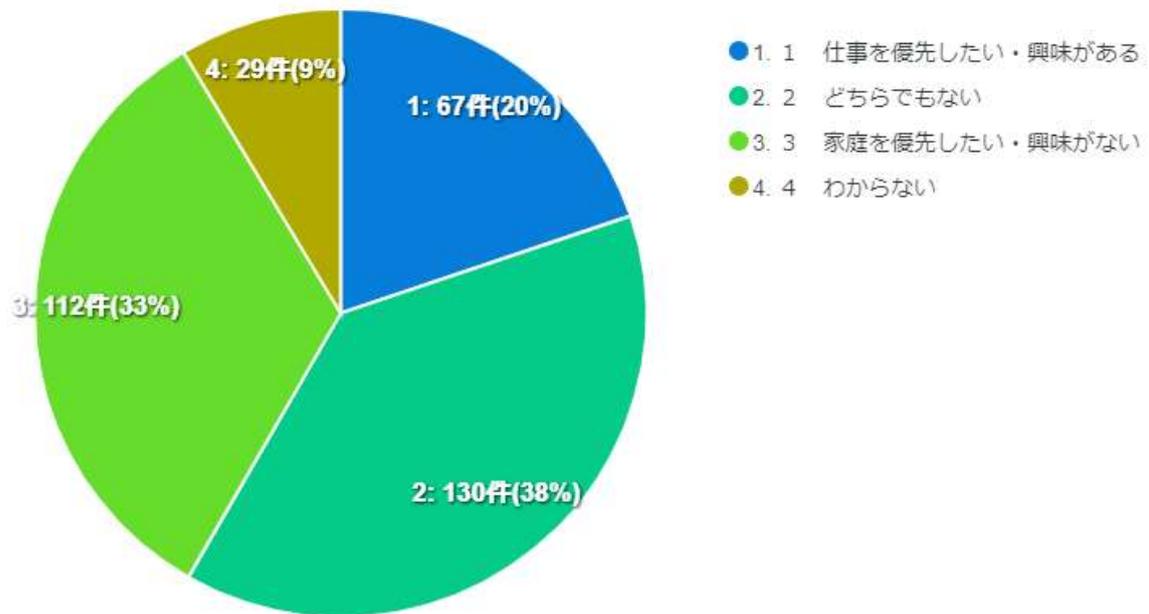
③ 消防団員の消火活動に興味がある (n=338)



④ PTA等の保護者会活動に興味がある (n=338)

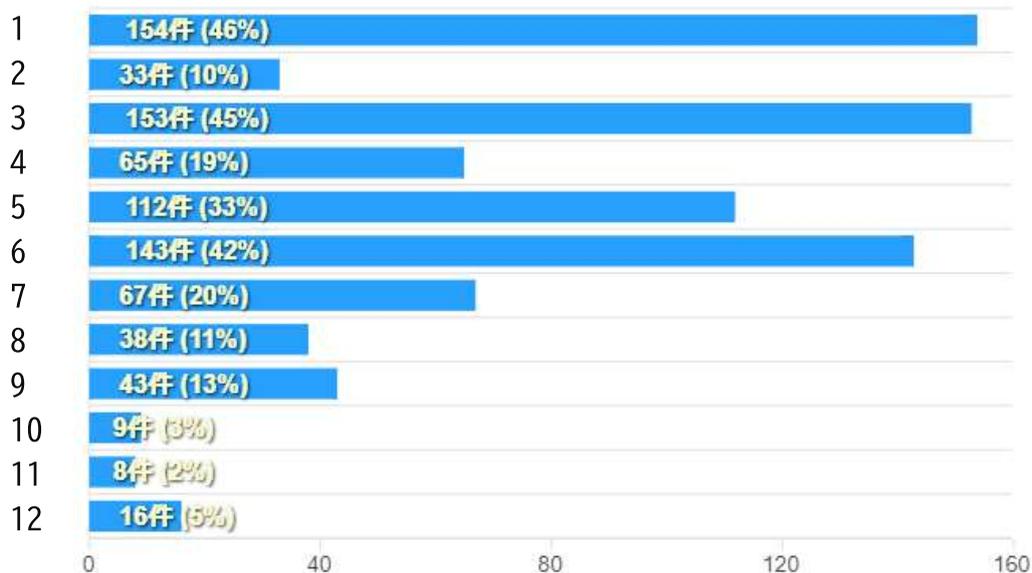


⑤ 政治活動に興味がある (n=338)



◆家庭における男女共同参画について

問7 男性が家事・育児・介護に積極的に参加するには何が必要だと思いますか。
あてはまるものを最大3つまで選んでください。



《回答選択肢》

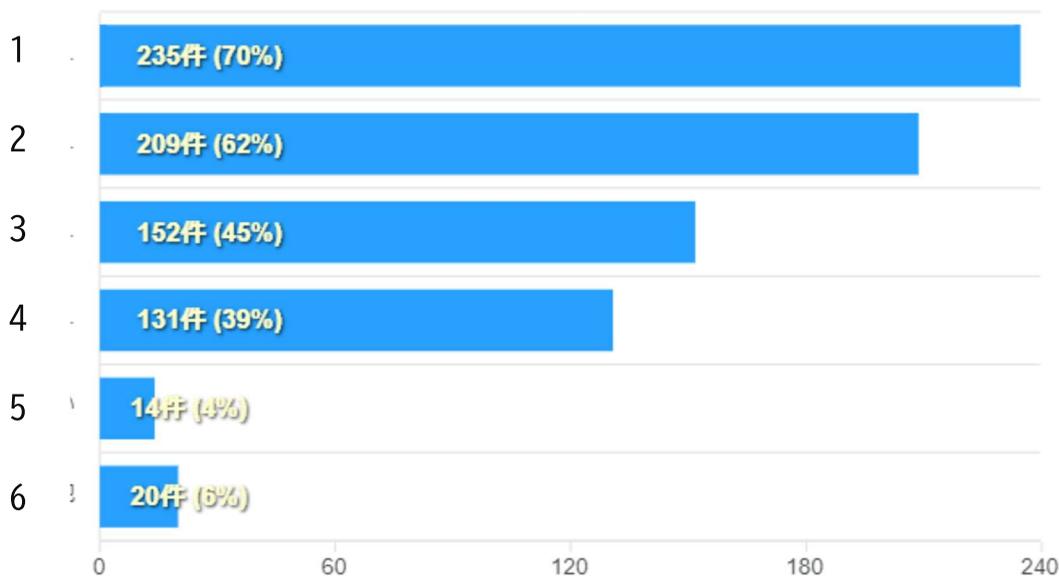
- 1 男性の家事・育児・介護参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事・育児・介護参加に対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る
- 4 周りの人が夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する
- 5 家事・育児・介護についての社会的評価を高める
- 6 男性の家事・育児・介護について職場の上司や周囲の理解を進める
- 7 多様な働き方の普及により余暇の時間を増やす
- 8 男性の家事・育児・介護について啓発や相談窓口の設置、研修を行う
- 9 男性が家事・育児・介護を行うための仲間やネットワークづくりを進める
- 10 特に必要なことはない
- 11 わからない
- 12 その他

《その他の回答》

- 給与の補填
- 本人の適正
- 手取金額の向上
- 女性の収入が低いから
- そもそも論男女のどちらか一人が働いて充分家庭をまかなうことができれば良いだけ。
- 国民の収入が増えるように政治を変える
- 本人がやろうとする気持ち、自分の事だと思う気持ち
- 各家庭のことに口を挟むべきではない。

- 収入アップが必要
- 男性の家事・育児・看護について、金銭的な面での不安を減らすべき
- 大人からではなく、学校教育で身につける
- もっと男性に知識がないと任せられない
- 男が子供の頃から家庭の名もない家事を率先して手伝い、また、親も出来るように教育すべき。親世代が何もさせないのは悪しき習慣。「さすが九州」などは最たるもの。女を女中扱いするのも母親が何もかもしてくれていると思っているせい。男は率先して家事をすべき。家事が出来る＝女子力ではなく、人間力であるという認識をさせないとダメ。

問8 男女がともに活躍できる職場にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを最大3つまで選んでください。



《回答選択肢》

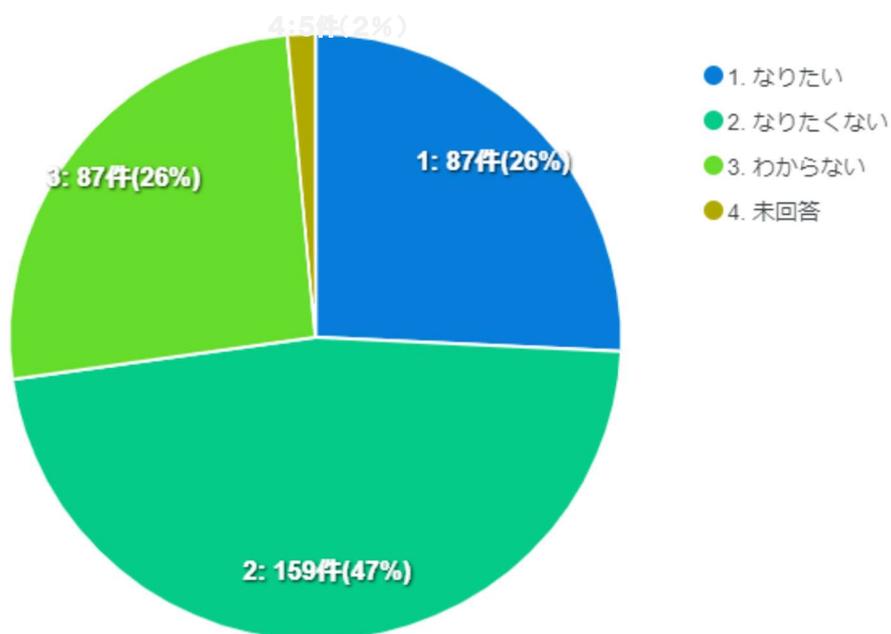
- 1 家事・育児・介護など家庭と両立ができる職場の支援制度
- 2 時差通勤や在宅勤務など柔軟な働き方ができる環境づくり
- 3 職場内のコミュニケーション
- 4 男女ともにキャリアアップを目指せる環境づくり
- 5 わからない
- 6 その他

《その他の回答》

- 時短勤務などを取得している者により業務量が増加した者への評価や給与への反映
- 解雇規制の緩和
- 手取金額の向上
- 男性優遇がある男性だけで基本給が違う

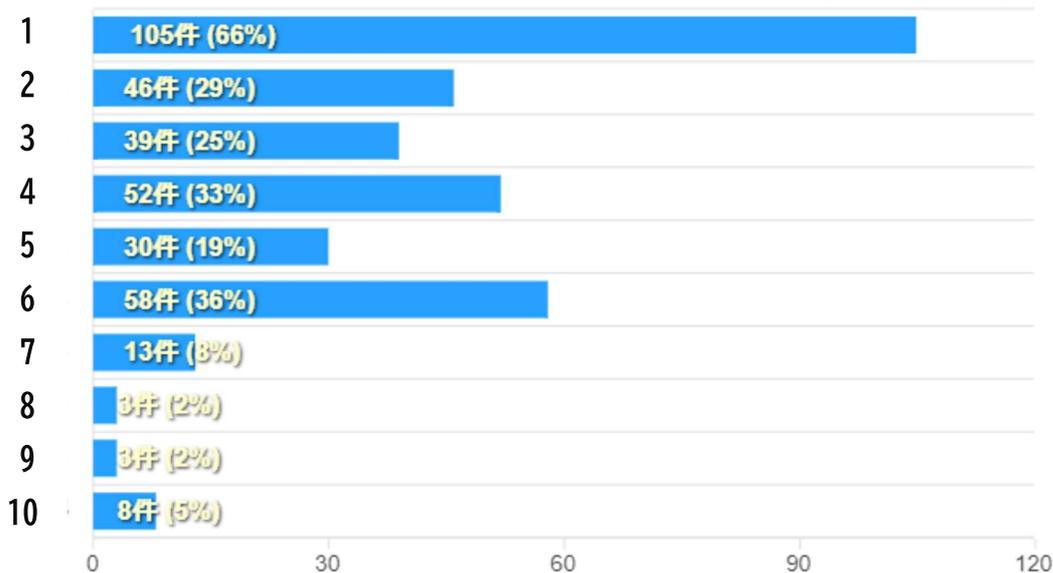
- 女性に限って生理痛などの欠勤が認められることはまあ我慢するが、そこに対する勤め先のフォローがない。けっきょく景気低迷を何とかしないとイケない。
- 女性の正規雇用拡大(氷河期世代救済)、正規雇用できないのであればせめて年収を正規雇用レベルに引き上げ(退職金などはどうせ出ないので年収くらいは平等にしてほしい)
- 政治を変える
- 質問の意図が分からない。現在でも男女共に十分活躍できていると考える。
- 平等にしたいが、女性だからって言われる時点で不平等にならざるを得ない。
- 両立できる支援制度は職場ではなく国がすべき。企業、特に中小企業が負担となると経営にかなり負荷がかかるため。
- 休暇による第三者への待遇改善
- まずは男女がともに活躍できるのではなく女性が子どもを産み育てやすい社会を作らなくてはならない。もちろんキャリアを望む女性に対してはキャリアアップができる環境を整える必要があるが働かなくては生きていけないから働いている女性がたくさんいる。まずは子どもを産み育てたい人への支援をしなければならない。国が一丸となってやらなければならない。男と女の役割が違うので平等を求めるのは違うだろうと考える。
- 職場だけでなく、都道府県・国レベルでの支援制度
- キャリア形成についての教育
- 生理で体調悪い日が多く、男性は女性より働きやすいと思うので、役割分担の模範がほしい。給料は同じにして欲しいけど、働き方まで男女平等だと困る
- 経営者の意識改革
- DXの推進による効率化
- お金を配る。必死に仕事しなきゃいけないから何も余裕がないからいけない。
- 会社の上層部や管理者の教育が必要。介護も家事もやったことなく他人にやらせている層がトップだと何も変わらない。

問9 【働いた経験のある女性にお聞きします】
管理職になることについて、どう思いますか。(n=338)



問10 【問9で「なりたくない」を選らんだ方にお聞きします】

それは、どのような理由からですか。あてはまるものを最大3つまで選んでください。



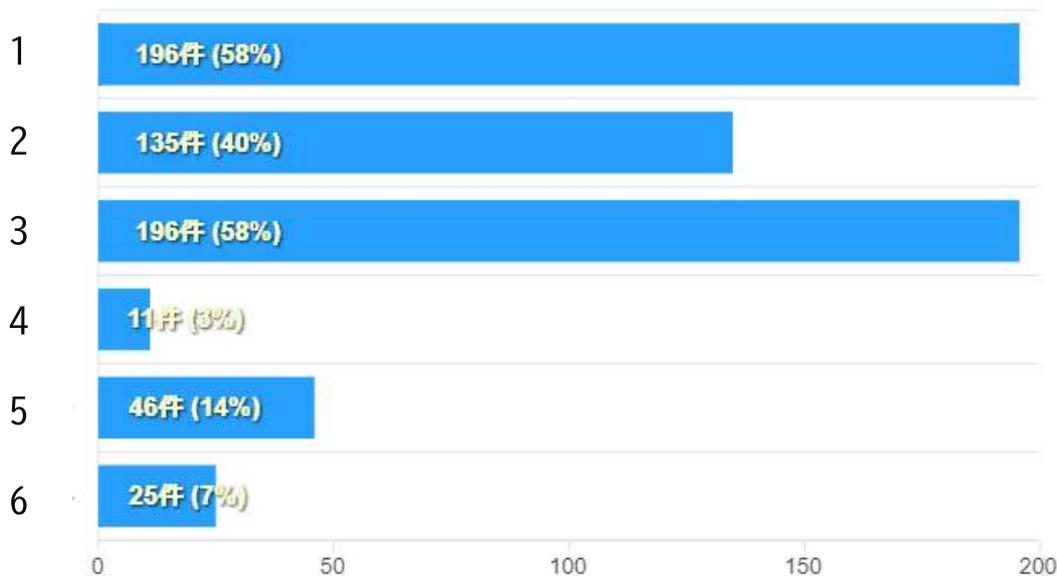
《回答選択肢》

- 1 責任が重くなるのが嫌だから
- 2 残業時間が増えそうだから
- 3 時間外勤務手当が支給されないから
- 4 自分の能力に自信がないから
- 5 ハラスメントの対応に自身がないから
- 6 仕事と家庭の両立が困難だから
- 7 職場に女性管理職を受け入れる環境が整っていないから
- 8 職場に女性管理職が少ない、またはいないから
- 9 女性管理職が増えたほうが様々な視点での会社運営ができるから
- 10 その他

- 実務から離れてしまうと、役職定年後に仕事を継続する際、ブランクが開いてしまい仕事についていけなくなりそう。実務経験の蓄積ができない。
- 責任に見合う報酬がえられないから
- 体調がもともと良くないから
- 今現在管理職だけど、上に上がるとなると転勤しなくてはならず、介護が出来なくなるから。
- 責任の重圧の割に周りの評価は低い。結果として自分自身の精神的負担が多くなり自分自身がおかしくなる
- 管理者はいらない。一人一人が自分のことを管理していかななくてはならない。そのような方向にシフトするべき
- 新卒で入った職場（公務員）でいきなり管理職にさせられて苦労したから

◆地域社会における男女共同参画について

問1 1 現在、自治会など地域団体における長の女性の割合が低い状況にあります。今後、女性の視点を地域に取り入れるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを最大3つまで選んでください。



《回答選択肢》

- 1 男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る
- 2 女性自身が積極的に地域活動に参画する意識を持つ
- 3 家族が協力して家事などを分担して女性が参加しやすいようにする
- 4 女性は積極的に地域活動に参加する必要がない
- 5 わからない
- 6 その他

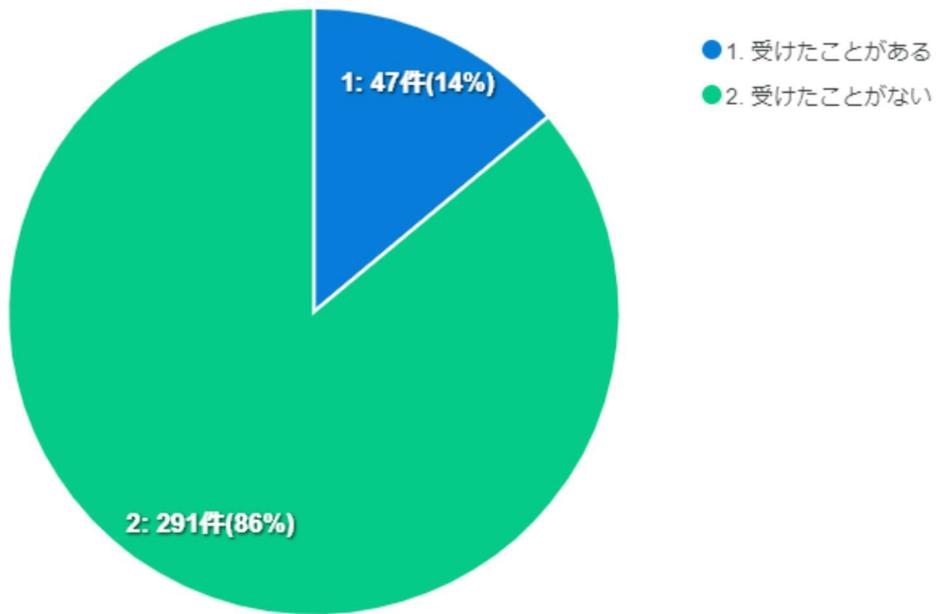
《その他の回答》

- 昔からのしきたりや、お付き合いで成り立っている田舎社会を大きく変える必要はない。
- 婦人部がある場合、婦人部の必要性を検討した方がいいと思う。
- 自治会等必要ない
- 女性の視点は大事だと思うがかといって必須なのかといわれると微妙だしそれぞれ個性があるため、意見をまとめ上げ、平均的な意見として取り込むことのほうが大事だと思う。
- 女性が長になったところで足を引っ張る高齢男性が現れるのでその制御が必要
- 草刈りなどの重労働は市に任せる。回覧板をメールにする。
- 女性の意見を聞いていない、そして結論ありきの質問である。不適切な質問でもある。
- 能力のある方が活動すべきであり男性女性の区別は無いです。
- 結局女性とは男性から見れば性的対象となる事がおおい。現に現職市長が不倫してるわけで、自治体や地域団体になってもそれに群がり利権を欲しがらるおじさんにかこまれるだけ

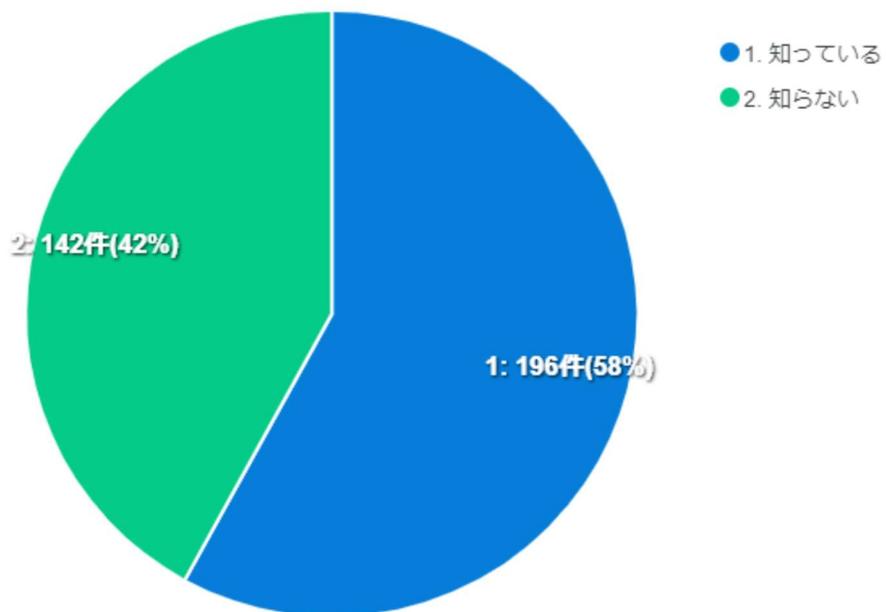
- 長く存在している長老的な人などだけに仕切らせない。
- 男性だけではなく、女性も女性だからと言う考え方をまず意識改革する必要がある
- 男性の女性に対する変なプライドをなくす
- 一人一人の性格が大きいと思うが、田舎に行けば行くほど閉鎖的で女性を軽んじる人が多い。
- 女性が発信・発言した事を[とりあえずやってみる]という意識
- 小さなコミュニティから始め、裾野を広げる。キャリア形成を学ぶ場所をつくる。
- 時代に合った運営になるよう活動内容を見直す
- 特段問題なことは生じていない
- 自治会、町内会をなくして欲しい。なくても困らない制度があればいい。共働きファミリーに町内会参加は負担が大きすぎる。
- あえて女性主導との考えは不要。それをすると最終的には女性有利な風潮に傾く（あくまで平等が目的かと思います）
- 事情があって当時の区長に説明して自治会退会したら同じ班だった人から嫌がらせを受けた。メリットが分からない
- 会社、役所の女性管理職の一定割合を義務化
- 市役所からのインセンティブや、女性が自治体活動に参加しやすくなるような具体的な取り組み（例：体験イベント、ネットワーキングの場の提供、託児サービス付きの会合など）があると、参加のきっかけになると思います。
- 従来の「自治会」の存在意義や役割を一から検討し、このご時世に本当に必要な地域互助組織を新たにつくる
- どうしたらいいか、ではなくまず半々採用すべき。また、女性の意見も半々採用すべき。男が決めるよろくな事にならないのは現代の悪性腫瘍だと思う。

◆配偶者等からの暴力防止に関する意識について

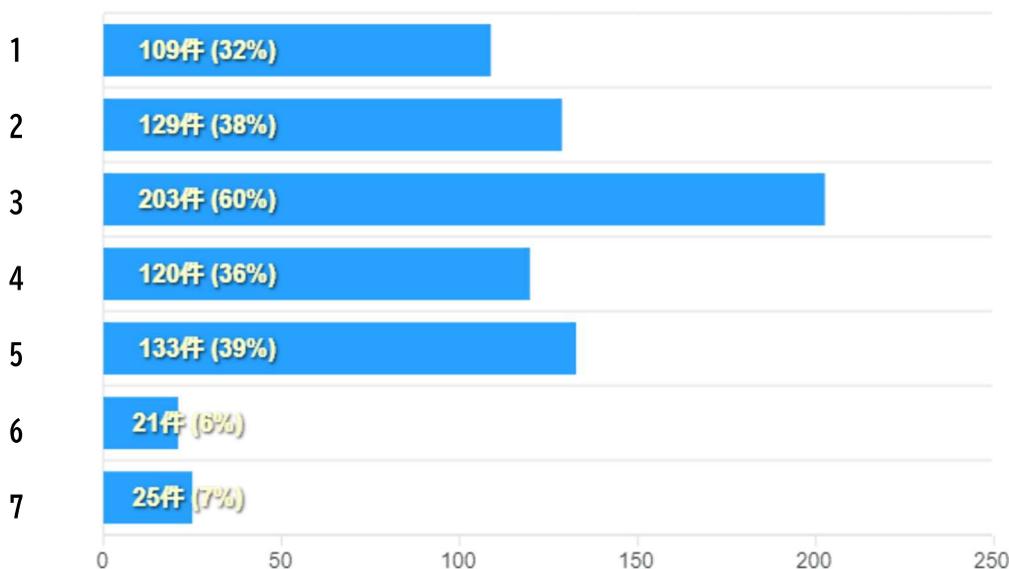
問12 DVを受けたことがありますか。(n=338)



問13 DVの相談窓口を知っていますか。(n=338)



問14 配偶者やパートナーからのDVをなくしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを最大3つまで選んでください。



《回答選択肢》

- 1 DV防止について啓発の機会を増やす
- 2 学校で暴力をなくしていくための教育を行う
- 3 加害者への処罰の強化や更生のための教育を行う
- 4 男女間の経済的な格差をなくしていく
- 5 相談機関の周知及び体制強化
- 6 わからない
- 7 その他

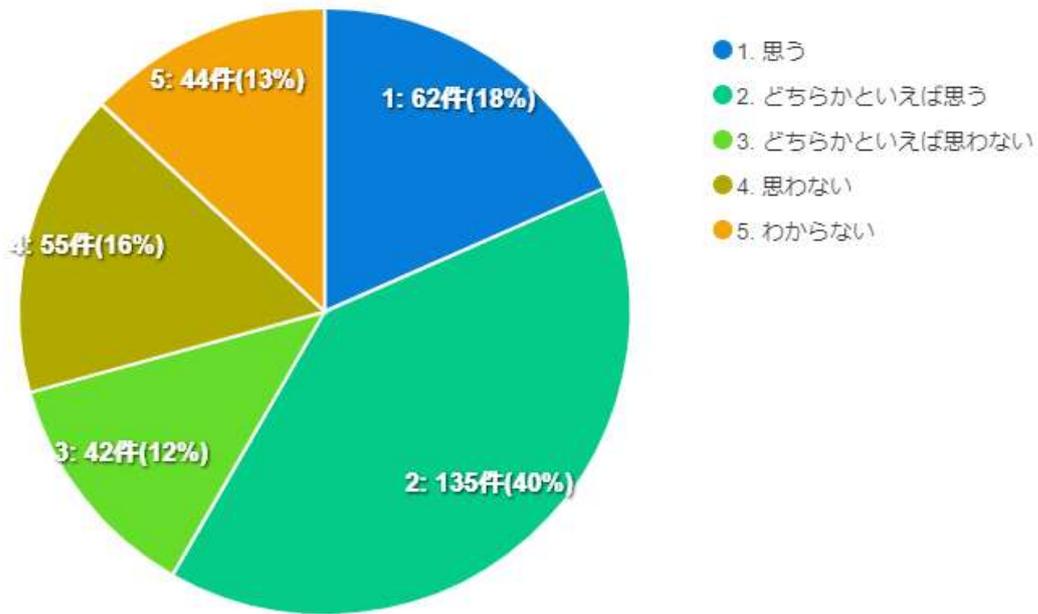
《その他の回答》

- DVは犯罪だということの周知
- 加害者の精神安定を図る啓発、研修
- 親のDVを受けると同じ様になりがち傾向を感じる。その親のDVの理由の一つは、金銭的にゆとりがなくなることにより起こると思う。よって、自分で収入を得られるとこの必要性を子供の頃から学ばせる必要がある。
- 加害者側には幼少期からの家庭環境などに関係があると思うので子供の家庭環境の調査や良識な知識などを普及させる
- 精神的DVの場合その状態が正常では無いこと。自分自身が現実をみる必要がある。まずは自身の精神ケアから。また加害者側もメンタルケアやカウンセリングが必要だと考えます。
- 育った家庭環境の影響もあると思います
- 精神的にDVに走る人が多いと聞いたことがあります。啓発とか暴力反対とか寝ぼけた話ではなく現実的にカウンセリングが必要であり、男女の差が無くDVには隔離が必要です。
- そもそも教師の家庭でDVの話をよく聞く。加害者支援プログラムの運用ができていない。DVで離婚調停に行ったのに調停委員の高齢男性から「なぜ結婚したんだ、あなたにも責任がある」と言われるなどモラハラ二次被害を受けた。心療内科の予約の取りにくさを改善しないと取り返しのつかない被害者が増加していく。

- 被害者にならない為の教育も必要。メンヘラはそもそもDVされてる自分が好きな節があるし、DVされる人はヒスな人が多い（身近な人調べ）誘発しない教育も必要。親の仕事な気もするけど。
- 加害当事者が気が付かない限りなくなる
- 全ては収入をあげて先ずは生活苦をなくす。市民税収の引き下げや個人が負担しなきゃいけない減税措置を取る。先ずはそれから。金持ち喧嘩せずだから
- DVをはたらく人物は、そのままの場合は今後も繰り返すのですぐに関係を断つ
- 老若男女問わず、支配欲をコントロールすること方法を学ぶ機会を増やす
- 子が育つ環境が影響するのでまず親の仕事がしっかりあり、子供が家にいて安全であるという環境、共働きは必須ではなく、家でお帰りと迎えてくれる環境も必要、そのような環境が歪んでくると夫婦喧嘩をみたりして子が将来DVを持つ傾向になるので
- 子どもの頃からの家庭教育が必要。親が子どもの気持ちに寄り添う子育てをすること、道徳を教えること、大人が本来あるべき姿を示すこと、正しい愛情を向けられた中で育てば虐待や迷惑行為などがかなり減ると思う
- 女性が男性に頼らなくても生きていける組織づくり。
- DV加害者へのカウンセリングや精神的な治療
- 警察と民間の連携を強固にして、通報から相談まで一貫して行えるようにするべき。警察だけ、民間の相談だけになっては防げない事件が多い。お互い連携するべき。
- 加害者を精神科へ通院、もしくは入院させて治療する
- 道徳観念の啓発、教育こそ必要なことである
- 愛や結婚の本質的な意味を理解することが大切だと思います。結婚は、2人がお互いの幸せのために行動で支え合う関係であるべきです。 そのためには、特に新婚夫婦を対象にしたカップルセラピーや、家庭の築き方・共に暮らす上での調和の取り方などを学べる共有セッションなどの機会を設けることが重要だと考えます。
- 個人的な経験だが、DVを起こすような人は、小中高の学校生活の中ですでに同級生や下級生に対して暴力をふるった経験を有している。学校内での暴力を根絶することから始めるべきである。まずは「いじめ」という言葉を使用禁止して、「傷害」・「名誉棄損」などの正しい用語を使うよう教育現場に厳命するべきだ。
- 即警察の介入
- 親の教育、意識改善も必要。DVする男は周りが自分に対して何もしてくれないから駄々こねてるだけ。甘えんな。自分のことは自分でやれ

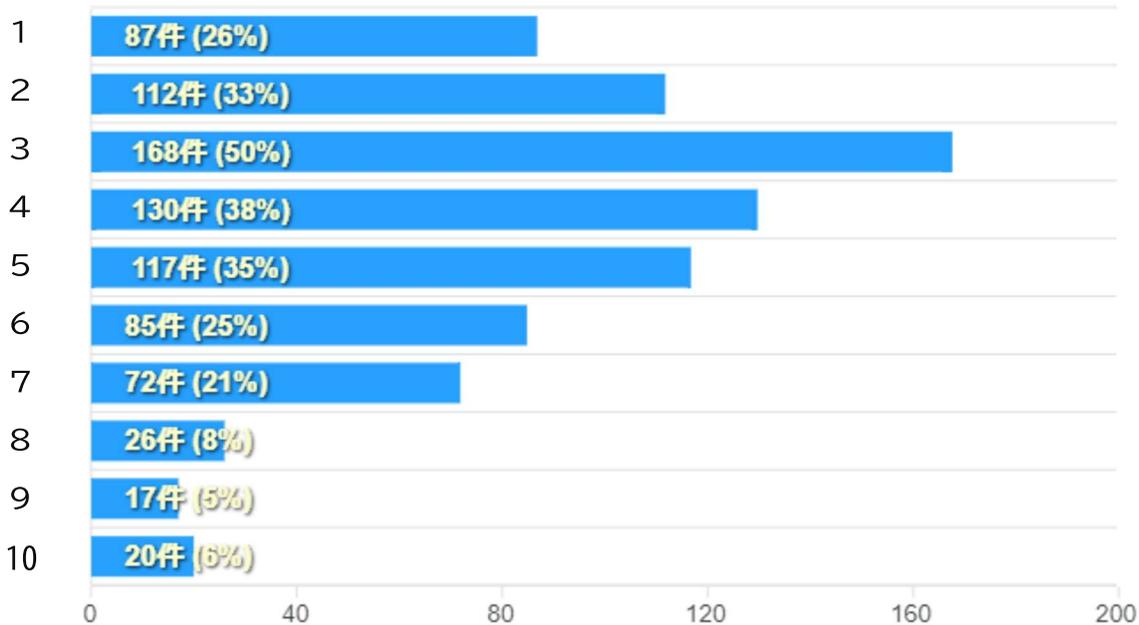
◆多様な性に関する意識について

問15 現在、性的指向や性自認に悩む方にとって偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。(n=338)



◆男女共同参画推進のための取り組みについて

問16 男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを最大3つまで選んでください。



- 1 女性を各種委員や管理職などに積極的に登用する
- 2 企業などにおいて男女がともに活躍できる環境となるよう啓発を進める
- 3 育児・介護のための施設やサービスなどを充実させる
- 4 子育てや介護などで仕事をやめた方への再就職を支援する
- 5 ワーク・ライフ・バランスが取れるよう残業時間の削減や在宅勤務の普及啓発を進める
- 6 男性の育児・介護休業取得や家事・育児・介護への参画を促進する
- 7 学校教育や社会教育の場で男女の相互理解や協力についての学習を充実させる
- 8 地域において男女とも積極的に地域活動に参画するよう啓発を進める
- 9 わからない
- 10 その他

《その他の回答》

- 育児・家事・介護等の社会的価値向上
- 何もする必要がない
- 男女問わず、外国人の雇用をやめて日本人を採用すること。
- 経済的格差が世間では言われてるが、経済的格差を是正するためには景気回復による潤沢な雇用環境を準備する事が必要だと思う。男女格差ではなく、そもそもが就職の選択肢が少ない。
- 参画しやすい環境づくりは大事だが、参画しない（家事優先、専業主婦）を選択する人も尊重できる社会にしてほしい。近年では参画推進が進み、逆に専業主婦（子育て優先）を選択する人を責めるような社会風潮がある。また専業主婦が選択しやすいような環境も合わせて整備してほしいと思う。
- 仕事ができない男性が女性を妬まないようにしてほしい。
- 習い事の送迎、送迎は無料

- 自治体は何もしなくていいし、口出しすべきでない。そもそも何故推進しなければならないのか理解できない。
- そもそも優秀な人材を登用すればいい。そもそもこの問いの時点で能力の部分を見ていない。やみくもに女性だ男性だと言う前に能力あれば性別なんて関係ない
- 男女関係なく能力のある人が管理職などに就くべきで、女も参加させるべきなどという考えをいつまでもしていたら、その「べき」思考に囚われて逆に女性がやりたくもないものを無理して参加しないと行けなくなると思います。
- 女性に働け働けとゆう社会をやめてください。子を産み育てたい人がそうできるように社会をつくってください。
- 子供が欲しいので、今は働く気はない。子供ができてから女性が働くのはキツイと思う。子供ができたら、女性は働かなくても、毎月お金が入ってくるシステムじゃないと、女の人はつらいと思う。そこを男性側がフォローしてくれればいいけど、夫がしてくれなかった場合、子どもの面倒も仕事も体調を戻すのも、つらくて女性にリスクが大きいと思う。
- 弱者やマイノリティへの配慮よりも、相互に理解し敬意を持つ事、大人がそのその姿勢を示すこと
- 啓発するだけで良い。センターやセミナーなどで特定の性に偏った支援や予算は不要
- 不要な活動である。税金の無駄遣いでしかない
- 団塊世代・バブル世代のセクハラ・パワハラジジイどもを公職から追放せよ。
- お金を配る、移民即追放、生活保護者は現物支給、NHK料金は市長のポケットマネーから出す
- 女性偏重の国や市の考え方に疑問がある男性には男性しかできないこと女性には女性にしかできない事がある。女性偏重の考え方はおかしい!ある
- まず定年を65としてそれ以上の人間に政治参加させない。今の事情をアップデートできない老人は現代社会の癌。男女共同参画のはなしはそれからだ。

◆男女共同参画に関する意見について

問17 男女共同参画についてご意見などがあれば、ご記入ください。

- お互いを尊重する社会を目指していければいいなと思います
- 男女に関係なく、個人の意識だと思います。このご時世、どこからでも情報とれるし、年齢に関係なく、参画意識のある人は、情報が目に止まる。あえて言えば、情報格差をまず無くすことが必要だと思います。
- 過度な推進はしない方が良く思う。
- 職場なら管理職のビジョンやスキルを両性の候補者に研修を行う。地域活動はイベントごとの簡潔なマニュアルを市が主導して作成することを指導する等が男女共同参画の前提だと思います。
- 男女共同参画により社会がより良くなれば男女双方にとっていいことだと思う。性の多様性については、LGBTなど理解はできないが、当事者がいいと思うものを選択できる自由はあっていいと思う。
- 男性はもとより女性もリーダーは男性という固定観念を持っている人が多いような気がする。女性の意識改革も必要だと思います。
- 男性が育児休暇を取ったり、子どもの看病で休んだりする場面を身近でも見かけることが多くなってきて良い傾向だと思う。政治や何かしらの事業などで女性に関することを決める場にはあらゆる年代の女性に参加してもらいたいと思う。男女共同参画を進めていく上で、安心安全な社会であることは必須だと思う。絶対に移民を増やさないで頂きたい。通勤中に多くの小中学生が登校しているのを見かける。この子たちの未来が安心安全であることを願っている。治安が崩れれば男女共同参画なんて言ってもらえなくなる。
- Q16のその他回答に記入した通り、過度な男女共同参画を推進するのはよくないと思っております。各個人、家庭の選択を尊重かつ選択できるような社会であってほしいです。
- 現在の収入環境を考えると、裕福な方は問題ないが、残業ありきで仕事をしないと生活そのものが破綻すると考える。その様な状況下で、男女共同参画を目指すのは、現状の政治の下では不可能ではないか？また、男女共同参画が、少子化の要因の1つではないかと考える。男女共同参画を唱えるのは良いが、あくまで一部の声の大きい人のためだけに存在してはいないか？と、疑問を持つことがある。
- 男女共同参画事業そのものが不要であると考えています。
- 女性の家事・育児の負担を小さくして共同参画出来る時間・機会をつくるのが重要と考えます。
- 能力や適正で選ぶべきであり、女性の比率を上げるために無理やり採用する事は反対。
- 多様性ばかり押し付けられて普通で居ることが悪のようなものになる。そもそもマイノリティとは少数意見や性的指向の意見を扱いきる。民意で示しても数の暴力、弱き声を拾わないってなるし、生きにくい世の中である。DV等差別は行けないが何でも許せるほど生活が楽じゃない。目を向けるべきものは他にもあるし一部だけではない、教育や道徳に力を入れ社会にでも優しさと厳しさに耐える教えも必要、皆ホワイト企業で働くばかりではない、外国人の犯罪も起訴できない国家に対して不起訴の理由も明かされない。これは平等と言えるのか。正義や幸せは皆で気づく社会であって誰か1人で成し遂げるものじゃない今のままでは普通の人ですら生きにくい。それなのに男女ってくる考え自体が既におかしいし、矛盾を覚える。ただの絵空事、机上の空論だよ

- そもそも考え方や行動原理に差があるので、なんでも平等公平にするのではなく、全員にとって不利の無い条件とそれを許容できる環境づくりができてから、男女共同参画を考えていかないとどこかで衝突が起きてしまうので、計画ありきではなく環境づくりを常に念頭に置いて計画していくのが良いのではないかと。ただし、環境づくりを策定する場には、全く関係のない第三者は除いて臨むことが望ましいと考える。
- この歳になると、面倒な事はしたくない、やってくれる人があれば任せるという気持ちが強くなってしまふ。参加する事によって、やりがいがあるという気持ちが持てないとなかなか頑張ろうとは思えない。
- 男性だから、女性だからと分けて考えてる人があまりに多すぎる。男女と分けるから共同参画などがしにくくなるので、わざわざ分ける必要は無いと思います
- 男女平等は当然のこと。だが役割が違う。女性が子どもを産み育てられるようにするにはどのようにすればいいのか。男性だけの給料で生きていけるようにする、子を持つ人が働きたい場合は女性や男性の短時間勤務、休みの取りやすさなど
- いまだに夫の職場は昔ながらの環境のため育休は取ってもらえなかった。まだまだ男性が育休などの取得が厳しい環境があります。
- そもそも男女ともに働くことになってしまい、家事育児を担当していた女性側に負担が大きくなっている。働きたい女性もいるのはわかるが、男性だけの稼ぎですめば女性は働かずに家庭に専念できていた。給料を上げて、共働きしなくても済むようにして、働きたい女性がいれば後押しするのがよいと私は考えている。
- 都内勤務しています。木更津はまだまだ昔ながらの慣習が根強く残っており、男性は仕事メイン、女性は家事育児と両立がしやすい仕事という考えを持った男性が多いと感じています。会社内大丈夫男性がそういう考えを持った人が多数、男性が育休を取得したり時短勤務をしたり積極的に学校行事の役員などになったりする事例が少ないです。正直男性よりも有能な女性、稼げる女性はたくさんいます。でももっと働きたいのに家事育児が足枷になり働けない女性も多数いると思います。少しでも男性の意識を変える活動をしていただきたいです。
- 男女共同参画は、名称とは裏腹に片方の性の優遇のみを目指しているように見える。これ以上優遇を進めると男女の分断が進み、出生率の低下の主原因となると考えている。
- この活動に国からの交付金があるとすれば何と無駄な税金の使い方であろう。男女平等が叫ばれて以来、ますます婦人に対する尊敬の心が社会から希薄になっていく。
- 家族における男女共同参画について、木更津Magazineでは、東京から移住してきた家族の紹介記事をよく見かけます。そこに加えて、男女平等な家庭のあり方をイメージできるようなインスピレーションコラムを設けるのも良いと思います。例えば、家族を大切にし、子どもと積極的に関わる男性の姿、管理職や経済的に自立しながらも夫の協力を得て母親としても活躍する女性の姿、夫婦がどのように愛情を保ち、温かい関係を築いているかを共有するような内容です。こうした取り組みを通じて、「男女が協力し合う家庭像」を少しずつでも市民の中に根付かせていくことができるのではないかと思います。
- 共同参加ではなく参画というお題目を掲げた事で逆に窮屈になってると思います。それに社会参加以前に女性にしか出来ない出産を推進するためにも、まずは結婚出産しやすい環境、特に共働きせずとも暮らせる税制を考えるのが政治の責務です。少子化だ人だと安直に外国人入れる前に、まず日本人を増やせる環境を。

- 今いる男性人数を3分の1にして他を女性で固めれば正常に稼働すると思います。トップは女性必須。でなければ話や決定事項は男有利に傾くので共同部分が破綻する。思っているよりも男がトップだと悪い結果にしかならないのは今の政治を見ても明らか。肝に銘じよ。



性別等にかかわらず 誰もが安心して暮らせるまちへ